

公開実用平成 2-130245

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-130245

⑬ Int. Cl. *

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)10月26日

A 47 C 1/035

6850-3B

7/54

G

8608-3B

B 60 N 2/22

7049-3B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 リクライニングシートにおけるアームレストの支持構造

⑯ 実 願 平1-38646

⑰ 出 願 平1(1989)3月31日

⑱ 考 案 者 鈴木 久 康 岐阜県各務原市蘇原興亜町4-1 天龍工業株式会社内

⑲ 出 願 人 天龍工業株式会社 岐阜県各務原市蘇原興亜町4丁目1番地

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 考案の名称

リクライニングシートにおける

アームレストの支持構造

2. 実用新案登録請求の範囲

傾動可能としたシートバックの近傍にアームレストを配置したリクライニングシートにおいて、

このリクライニングシートを構成する側板部材の上端に前記アームレストを前後動可能に配置するとともに、

このアームレスト内に形成されて前後方向の案内溝を有する支持部材に対して、前記側板部材と一体的な支持アームの先端を前記案内溝を介して前後動可能に連結し、かつ前記シートバックの側部と前記アームレストの後端部とを支持軸により回動可能に連結したことを特徴とするアームレストの支持構造。

3. 考案の詳細な説明



(産業上の利用分野)

本考案はリクライニングシートに関し、特にそのシートバックの近傍にアームレストを配置したリクライニングシートに関するものである。

(従来技術)

バスや列車等の乗物において採用されている座席は、一般にそのシートバックを傾動可能とすることにより、所謂リクライニングシートとして構成されているものが多く、使用者がそのシートバックを適宜角度に傾動させることにより、使用者の好みに応じた安楽姿勢をとることができるようになっている。

ところで、近年のように、バスや列車等の乗物による夜間走行を含む長距離走行が要望されてくると、このような乗物において採用されるべきリクライニングシートに対してもそれなりの機能が要求されるようになってきている。すなわち、夜間走行する場合のリクライニングシートにおいて



は、そのシートバックの傾動によって使用者の上部を好みに応じた角度にするだけでなく、このシートバックを後方に大きく傾倒してリクライニングシート全体を寝台のように構成する必要が生じてきているのである。

そこで、本考案者等は、上記のような要求に必ずべく種々検討を重ねてきているのであるが、その検討の中で次のような新たな問題を発見するに至った。

すなわち、一般に、リクライニングシートを構成するアームレストは、そのシートクッションの側部に配置した側板部材の上面にこれと一体的に形成してあるが、シートバックを後方へ大きく傾倒した場合、第5図に示すように、このアームレストは前方に残ることになる。そうなると、このアームレストは、寝ている人の役には全く立たないだけでなく、そのリクライニングシートからの使用者の離席移動の邪魔にもなるものである。

(考案の解決しようとする課題)

本考案は以上の経緯に基づいてなされたもので、その解決しようとする課題は、リクライニングシートにおけるシートバックを後方に大きく傾倒した場合に、アームレストが前方に残って着座者の肘が当たらないことであり、このアームレストが離席移動の邪魔になることである。

そして、本考案の目的とするところは、シートバックの傾動に伴ってアームレストが動き得るようにして、どのような場合にも着座者の肘が常に当たって十分役に立つようにアームレストを移動させることができ、しかもこのアームレストが邪魔にならないようにすることのできるリクライニングシートにおけるアームレストの支持構造を簡単な構成によって提供することにある。

(課題を解決するための手段)

以上の課題を解決するために、本考案の採った手段は、実施例において使用する符号を付して説

明すると、

「傾動可能としたシートバック(11)の近傍にアームレスト(13)を配置したリクライニングシート(10)において、

このリクライニングシート(10)を構成する側板部材(12)の上端にアームレスト(13)を前後動可能に配置するとともに、

このアームレスト(13)内に形成されて前後方向の案内溝(15)を有する支持部材(14)に対して、側板部材(12)と一体的な支持アーム(16)の先端を案内溝(15)を介して前後動可能に連結し、かつシートバック(11)の側部と前記アームレスト(13)の後端部とを支持軸(18)により回動可能に連結したことを特徴とするアームレストの支持構造」

である。

(考案の作用)

次に、本考案の作用を、本考案を適用したリク

ライニングシート(10)の使用の態様に従って詳細に説明する。

まず、このリクライニングシート(10)が通常の使用状態、すなわち第1図に示すようにシートバック(11)を後方にそれ程大きく傾倒していない状態では、シートバック(11)とアームレスト(13)とを連結している支持軸(18)は側板部材(12)の後端立上り部(12a)の上方に位置し、これによりアームレスト(13)の後端部は後端立上り部(12a)上に位置している。また、このとき、側板部材(12)と一体的な支持アーム(16)の先端に設けた係合部材(17)は、アームレスト(13)内に設けた支持部材(14)の案内溝(15)の後端に係合している。従って、この場合のアームレスト(13)は、第1図に示したように、その前端をシートバック(11)の前方に突出させた略水平の状態にあり、支持軸(18)によりシートバック(11)側に、係合部材(17)により側板部材(12)側にそれぞれ支持されている。この

ようなアームレスト(13)が使用者が使用しても、このアームレスト(13)がその荷重に十分耐えることは勿論、位置がズレるようなことも全くないことは当然である。

次に、このリクライニングシート(10)を寝台のように構成すべくシートバック(11)を後方に傾倒していくと、アームレスト(13)はその後端の支持軸(18)によってこのシートバック(11)と連結されており、また支持アーム(16)の先端に設けた係合部材(17)はアームレスト(13)側の支持部材(14)に形成した案内溝(15)内を案内されているから、アームレスト(13)はシートバック(11)の傾動に伴って後方へ移動する。このとき、アームレスト(13)内の支持部材(14)に設けた案内溝(15)は、その前端部が後端部より高くなるよう所定の曲線状に形成してあるため、アームレスト(13)の下面が側板部材(12)の後端立上り部(12a)の上面に常に当接するようにアームレスト(13)を案内するととも

に、アームレスト(13)の前端をあまり大きく上昇させないようにしている。

そして、シートバック(11)を最大限後方に傾倒してしまうと、アームレスト(13)は第2図に示すような状態になるのである。すなわち、このアームレスト(13)の後端部は、シートバック(11)と一体的であってシートバック(11)との間に隙間を形成することがなく、シートバック(11)に寝た人の腕を十分に支持し得る状態にある。換言すれば、アームレスト(13)の後端においては、支持軸(18)によってシートバック(11)に対する支持位置が変化しないのであるから、シートバック(11)上に寝ている人の腕は常にこのアームレスト(13)上に置かれた状態にあるのである。

また、このアームレスト(13)の先端部は、その案内溝(15)に係合している係合部材(17)によってアームレスト(13)の略中央部が側板部材(12)の後端立上り部(12a)の上面に当接した状態となって

いるため、上方へ大きく突出することがない。従って、この場合においてもアームレスト(13)はその本来の使用を十分行なうことができることは勿論、このような状態にしたリクライニングシート(10)から外に出ようとする使用者に対して、アームレスト(13)が邪魔になるようなことは全くないのである。しかも、このアームレスト(13)に、灰皿、シートバック(11)の傾動操作を行なうレバー、各種のスイッチ等が設けてある場合には、使用者はシートバック(11)を最大限後方に傾倒した場合であっても、このシートバック(11)に寝たまゝの状態でこれら进行操作し得るものである。

(実施例)

以下に本考案に係るリクライニングシート(10)を、図面に示した実施例に従って詳細に説明する。

第1図及び第2図は本考案を採用したリクライニングシート(10)の側面をそれぞれ示しているも

ので、第1図は通常使用時におけるリクライニングシート(10)の側面図であり、第2図はそのシートバック(11)を最大限後方に傾倒した場合の側面図である。

このリクライニングシート(10)のシートバック(11)は、本実施例においては回動軸(11a)を中心に傾動するものであり、このシートバック(11)の側方には側板部材(12)がシートフレームに対して一体的に設けてある。この側板部材(12)の後部には、アームレスト(13)を摺動可能に載置するための後端立上り部(12a)が一体的に突出形成しており、またこの側板部材(12)内に一体的に形成した支持アーム(16)の先端がこの後端立上り部(12a)から突出させてある。

アームレスト(13)は、その上面に使用者が腕を乗せるものであり、その内部には、第3図に示すように、案内溝(15)を有する支持部材(14)が一体的に設けてある。この案内溝(15)は、その後端部

が前端部に比して低くなるような曲線状に形成してある。また、このアームレスト(13)内の支持部材(14)の後端部には、第3図及び第4図に示すように、シートバック(11)側に向けて突出する支持軸(18)が一体化してあり、この支持軸(18)の先端部はシートバック(11)の側部に回動可能に連結してある。なお、この支持軸(18)としては、シートバック(11)の側部に一体的に設けて、その先端をアームレスト(13)側に回動自在に連結して実施してもよいものである。

側板部材(12)側に一体化した支持アーム(16)の先端には、第3図に示したように、上記案内溝(15)に係合して抜け止めされたローラ等の係合部材(17)が設けてあり、この係合部材(17)は案内溝(15)に対してのみ相対移動自在となっている。なお、支持アーム(16)の先端部に案内溝(15)を形成しておき、この案内溝(15)にアームレスト(13)側に固定的に設けた係合部材(17)に係合させるよう

に構成することも考えられるが、支持アーム(16)の構造が複雑化する等の理由から、やはり案内溝(15)をアームレスト(13)内の支持部材(14)に形成する方がよいようである。

なお、上記実施例においては、支持アーム(16)を側板部材(12)とは別体のものとして構成した例について説明したが、この支持アーム(16)は、側板部材(12)の剛性が十分なものであれば側板部材(12)の後端立上り部(12a)に一体的に形成して実施してもよいものである。

(考案の効果)

以上説明した通り、本考案においては、上記実施例にて例示した如く、

「傾動可能としたシートバック(11)の近傍にアームレスト(13)を配置したリクライニングシート(10)において、

このリクライニングシート(10)を構成する側板部材(12)の上端にアームレスト(13)を前後動

可能に配置するとともに、

このアームレスト(13)内に形成されて前後方向の案内溝(15)を有する支持部材(14)に対して、側板部材(12)と一体的な支持アーム(16)の先端を案内溝(15)を介して前後動可能に連結し、かつシートバック(11)の側部と前記アームレスト(13)の後端部とを支持軸(18)により回動可能に連結したこと」

にその構成上の特徴があり、これにより、シートバックの傾動に伴ってアームレストが動き得るようにして、どのような場合にも着座者の肘が常に当たって十分役に立つようにアームレストを移動させることができ、しかもこのアームレストが邪魔にならないようにすることのできるリクライニングシートにおけるアームレストの支持構造を簡単な構成によって提供することができるのである。

すなわち、本考案に係る支持構造によれば、

アームレスト(13)をシートバック(11)の傾動に伴って前後動するように構成できるから、特にシートバック(11)を後方へ大きく傾倒した場合であっても、シートバック(11)とアームレスト(13)間に隙間を形成することがなく、使用者はその腕を常にアームレスト(13)上に置くことができるのである。また、アームレスト(13)はシートバック(11)を後方へ傾倒すに従って、支持部材(14)の後端立上り部(12a)上を後方に移動するのであるから、シートバック(11)上に寝ていた人がこのリクライニングシート(10)から外に出る場合に邪魔になることはないのである。

4. 図面の簡単な説明

第1図はシートバックが通常の状態にあるときのリクライニングシートの側面図、第2図はシートバックを最大限傾倒した状態のリクライニングシートの側面図、第3図はアームレスト内の支持部材を示す部分側面図、第4図はシートバックと

アームレストとの支持軸による連結状態の一例を示す部分破断平面図、第5図は従来のリクライニングシートにおけるアームレストを大きく傾倒した状態を示す側面図である。

符 号 の 説 明

10…リクライニングシート、11…シートバック、11a…回動軸、12…側板部材、12a…後端立上部、13…アームレスト、14…支持部材、15…案内溝、16…支持アーム、17…係合部材、18…支持軸。

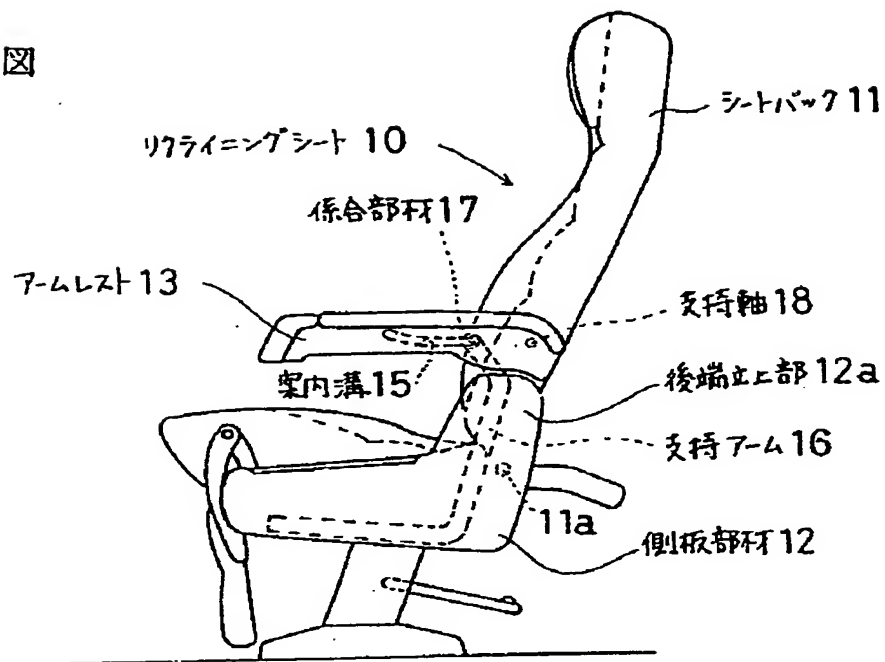
以 上

実用新案登録出願人

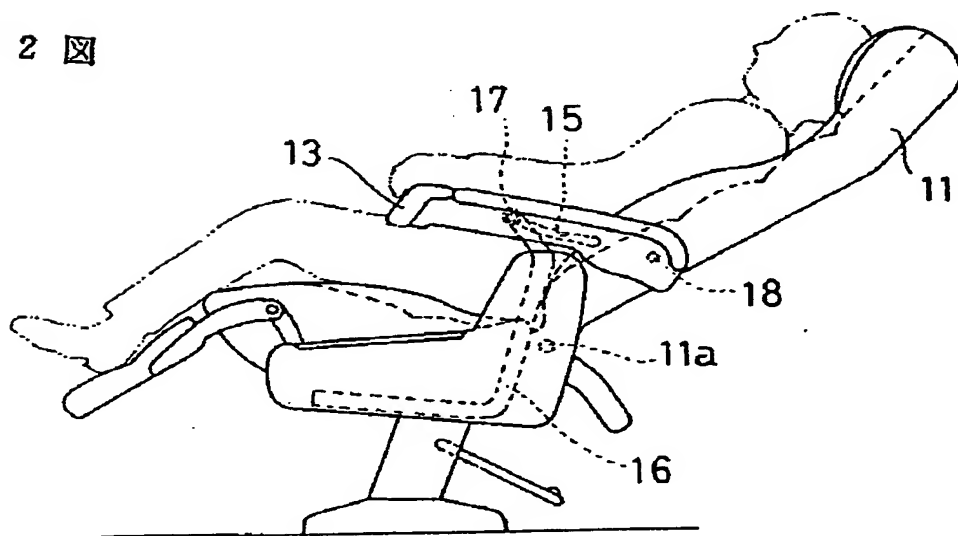
天龍工業株式会社



第 1 図



第 2 図

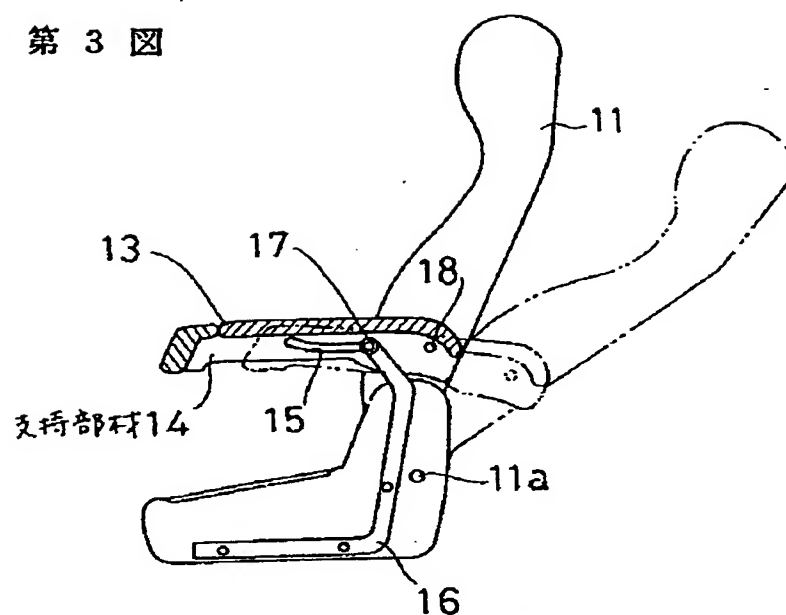


586

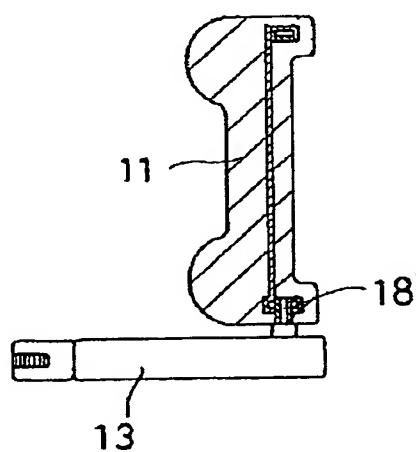
実用新案登録出願人実開 2-13024

天龍工業株式会社

第 3 図

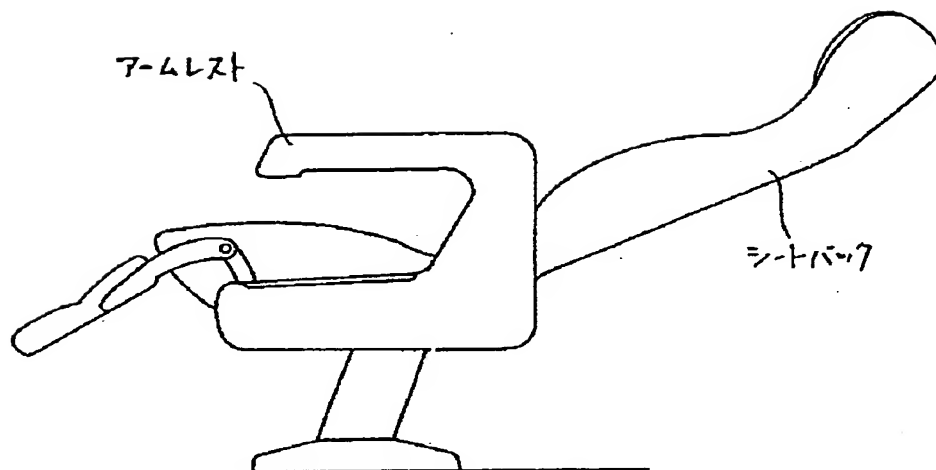


第 4 図



587
 実用新案登録出願人 実開 2-13024
 天龍工業株式会社

第 5 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☒ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☐ **FADED TEXT OR DRAWING**

☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.